

2026年3月9日



報道関係者各位

(一社)福井環境研究開発

ざわ高1年間の集大成！

哲学対話で「どう生きるのか」を考える。

「ざわザワ高校～海の未来をつなぐ哲学～」第9回授業を行いました！

2026年3月1日(日)福井テレビ大スタジオ

(一社)福井環境研究開発は3月1日(日)、「ざわザワ高校～海の未来をつなぐ哲学～」の第9回授業を行いました。最終回となる今回はざわ高生12人がジャーナリストの堀潤さん(学級委員長)、哲学者の岩内章太郎さん(豊橋技術科学大学准教授)と共に「君はどう生きるのか」をテーマに哲学対話を行いました。前半はこれまでの授業を振り返りながら、事前にかけてきた「君はどう生きるのか」をテーマにしたエッセイを一人ずつ発表しました。後半はそのエッセイを元に全員でそれぞれの生き方について議論をかわしました。この海洋教育プログラムは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環で行っています。



イベント概要

- ・開催概要:「ざわザワ高校 ～海の未来をつなぐ哲学～」第9回授業
 - ・日程:2026年3月1日(日)
 - ・開催場所:福井テレビ大スタジオ(福井市)
 - ・参加者:堀潤さん(学級委員長、MC)、岩内章太郎さん(豊橋技術科学大学准教授)、ざわ高生12人
 - ・番組:「ざわザワ高校 ～海の未来を変える哲学～#9」
- 放送:福井テレビ 2026/3/28(土)10:25～11:25
- 配信:TVer <https://tver.jp/>

討論ではなく「対話」を重ねて見えたもの

番組は、これまでの歩みを振り返ることから始まりました。収録の冒頭、哲学講師の岩内先生は、勝敗を決める「討論」と、協力して合意を目指す「対話」の違いを次のように解説しました。「討論というのは一つのトピックについて賛成派と反対派で分かれてやり合うのが通例ですが、対話というのは競争ではないのでみんなで一つの合意に向かっていきましょう。」

ざわザワ高校で重ねられてきたのは、まさにこの「対話」です。誰かを言い負かすのではなく、自分自身がどう思っているのか、自分に向けて言葉を作っていく。忙しい日常ではおざなりになりがちな「私に向き合う時間」を大切にしてきました。



ドロドロした感情から、地域の未来まで。これまで哲学対話を振り返る

番組では、これまで扱ってきた哲学対話のテーマを振り返りました。第一回は「嫉妬」。参加した高校生たちは、自身の体験を言葉にしながらかその本質に迫りました。導き出されたのは「自分の心の中で同じ、あるいは下と思っている人が優遇されているときに感じる行き場のない劣等感」という本質でした。岩内先生は「聞いてちょっと気分が悪い言葉になっていると成功」と、人間の感情の核心に触れる対話の成功を語りました。第二回は「不安」。越前海岸の事業者を交えた対話では、「成長の糧になる不安」「無駄な不安」「どうしようもない不安」といったように、不安にも種類があることが見出されました。事業を切り開く大人たちでさえ不安の中にあり、それでも前に進む生き様に触れる貴重な機会となりました。

その後も「幸せ」「つながり」「退屈」といったテーマで哲学対話は続きました。敦賀市にある「人道の港 敦賀ムゼウム」を訪ね歴史から「幸せ」を、漁師との対話では人との「つながり」を考えたり、地域の人口減少という課題から「退屈」の本質を探ったりと、対話は常に自分たちの足元にある現実と結びついていました。第六回のテーマは「自由」。番組では東京都にある自由学園で課外授業を実施。寮生活を送り、自分たちの手で生活を営む同世代の高校生たちとの交流は、ざわ高生に大きな刺激を与えました。自由と責任の関係や、一人で感じる自由と複数人で感じる自由の違いなど、多様な価値観に触れることで思考が深まっていきました。



テーマ「君はどう生きるのか」

最終回の授業では、高校生たちに「君はどう生きるのか」というテーマでエッセイを書いてきてもらうという宿題が出されていました。哲学対話を経て、彼らが紡ぎ出した言葉が、一人ずつ発表されます。

「自分の中の世界を広げていきたい。そのためにはいろんな人とつながりたい」(RNA)

「歴史について語り、平和の大切さ、命の尊さを多くの人に伝えたい」(みらい)

「福井県だからこそできる、新しい教育モデルを考案したい」(たいせい)

「過ちを犯した時にそれを認め、他人が過ちを犯したときには寛大な心で許せる人間」(TOPGUN)

「挑戦する人たちの手助けになりたい。冷やかな目で見るとは、支えられる存在に」(こと)

「世間一般の幸せではなく、身近にある幸せを大切にしたい」(ぐむすけ)

「違いを恐れずに生きていきたい。相手をまず知ろうとすることが大切」(ウギ)

「周りの空気に流されるんじゃなくて自分の意思で選び続けたい」(ひいろくん)

「弱い立場を守れるような人になりたい。人間だけでなく動物も幸せを手にする権利がある」(りんな)

「戦争より対話で決めたほうがいい。自由というものはある意味で不自由でもある」(たつき一)

「周りに振り回されずに自信を持って生きていきたい」(タダシ)

「お互いが納得できる折衷案を作る『曖昧さ』が大切」(タマフネ)

それぞれの経験や哲学対話での気づきが反映された、力強い決意表明。そこから、最後の哲学対話が始まりました。「社会貢献とは何か」「弱いとはどういうことか」「所有とは何か」。エッセイから生まれた新たな問いを全員で考え、対話はさらに深まっていきます。弱い立場の人を助けるべきか、という問いに対して「自己犠牲してまで人を助けたいという人はほんとにいるのか」とぐむすけが本音を投げかけると、議論は白熱。助け合いの精神から、海の資源の所有権、さらには親子関係における「所有」の問題にまで話は及びました。



卒業

番組の最後にはざわザワ高校に3年間参加し続けた、タダシとタマフネのインタビューVTRも紹介されました。当初は「半分騙された感じだった」と笑うタマフネでしたが、「自分の意見をまとめられるようになった」とその成長を語ります。タダシも「じっくり相手の話題について考える機会が増えた。ちょっと大人になれたのかな」と振り返りました。

最後に岩内先生は、高校生たちに力強いエールを送りました。「堀さんのような一流のジャーナリストと議論できたことは必ずこの先大きな糧になるので、ぜひ誇りを持って胸を張って生きてほしい」そう述べると、高校生一人ひとりに修了証書が手渡され、「ざわザワ高校～海の未来をつなぐ哲学～」は幕を閉じました。当たり前を疑い、仲間と対話を重ね、自分と向き合い続けた高校生たち。彼らが紡いだ言葉は、私たちにも「どう生きるのか」を考えさせるきっかけとなりました。



参加者からの声

学級委員長・堀潤さん

私は48歳になったがざわ高生の考え方に触れることでもう一度考え方を改めたり、違う角度で考えたりするきっかけをもらいました。すごく楽しかったです。

ざわ高生の皆さん

- ・学ぶことの楽しさを知ることができました。今後、学業だけでなく様々な方面で活かしていきたいです。
- ・言語化能力が高まったと感じます。これから面接やボランティア活動で役立てていきたいです。
- ・視点が広がったのが一番大きいです。自分を客観的に見直せたり、他人の意見を尊重して聞くことができたりっていう成長につながりました。この機会を与えてくださり感謝しています。
- ・一つ一つの言葉と海が密接に関わっていることを感じました。これまでは海をただの物質としてしか認識していませんでしたがより身近な存在として考えることができました。

<団体概要>

団体名称 : 一般社団法人福井環境研究開発

URL : <https://fukui.uminohi.jp/>

活動内容 : 北は東尋坊にみる奇岩断崖が続く越前海岸、南は優美なリアス式海岸の若狭湾と変化に富んだ福井県の海は、北前船などの海上交通の要衝として古くから栄えてきました。また、寒流と暖流が交わる福井県沖は越前がにや若狭ガレイなど海産物の宝庫。(一社)福井環境研究開発では、海に親しみ、大切に作る心を育む運動を進めています。



日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

<お問い合わせ先>

団体名称 : (一社)福井環境研究開発 ざわざわ高校担当: 山元、青園、大久保
電話番号 : 0776-21-2235 メールアドレス: kikakubu@fukui-tv.co.jp